

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	O69040008		
法人名	あすなる会		
事業所名	グループホーム あすなる窪田		
所在地	山形県米沢市窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	平成22年7月20日	開設年月日	平成21年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号—2F		
訪問調査日	平成22年8月10日	評価結果決定日	平成22年9月15日

グループホームあすなる窪田

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の今までの生活習慣等にあわせ、その想いになるべく近づける様努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の建屋がもともと個人の住居でもあり、家庭的な環境の中で、利用者がゆったりと生活できるように努力されている。食事に関してもあらかじめメニューはつくらず、手持ちの食材を見て、利用者話し合いながら、当日のメニューを決め、買出しや、調理など出来るだけ利用者と一緒にするなど、極力従来の生活の延長といった雰囲気作りに努力している。近隣の方たちとの交流も徐々に進んでおり、馴染みの関係が出来つつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の日頃の気持ちを職員が代弁する形で、又職員も利用者の立場に立って新しい理念を作りあげました。その理念を日々実践に繋げている。	職員間で話し合いを行い「自分でも何かしてあげたい」といった利用者の思いを理念として作りあげた。ミーティングやカンファレンス等で日々確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理髪店に出掛けたり、散歩した際には、こちらから積極的に挨拶をしたり心掛けてはいるものの、日常的となるとまだまだである。	近隣のそば屋、自転車屋等から外出の際、声をかけられるようになってきたり、避難訓練の時には空き地を避難場所として使わせてもらえるような申し出も受けるようになってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ不十分の中、週一度ヤクルトの販売員が来所され利用者として直接対面し買い物が出来るようホールに招き入れている。	/	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の回数が少なく、家族の参加者も限られている状態内容的にも一方的な報告になってしまっている。	推進会議というよりは事業所の報告会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の行政や、消防署等に出向き相談等を行っている。	運営推進会議に参加している。推進会議を通して地域との連携等を支援して頂けるように働きかけている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関には、夜間以外は鍵を掛けておらず拘束なしで、対応している。利用者お一人お一人の動きを把握し声掛けや、一緒に外へ出て散歩等で対応している。	自分の居場所がないと言って外出する利用者には一緒に外出して気がすむまで対応している。身体拘束の弊害についての職員研修が必要と思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	数回内部研修会を開き全職員が参加できるよう、取り組みましたが、参加できなかった職員については資料を配布し共有を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要になってくる事は確実と考え、学ぶ必要性は把握しているが、今のところ出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金について一部変更があった為、書面で報告している。又、必要に応じて個々に説明し、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望を把握する上で、よく話を聞いている。又家族が来所された際は、状況を伝えたり要望に関しては、一部反映している部分はある。	ケアプラン作成、更新の時に家族の話聞いて、苦情の窓口が事業所だけでなく、他機関もあることを提示、又はお便り等で情報発信するとより意見がでて運営に反映できる。	
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、提案を聞く努力をし安全面等、改善がみられたが、代表者は、現場の声を間接的にしか聞き入れていないので、反映までは至っていないのが現状。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	説明はあったが、納得いくものではなかった。やりがいのある職場環境整備は出来ていない。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部に研修委員会を設け、内部研修を定期的に行っている。研修会に参加した職員より報告を受けている。	法人全体で研修計画があり、各事業所から研修担当者が出席している。外部研修に参加した時はミーティングで報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会での交換実習に参加したり、その発表の場に参加し他のグループホームの方々と情報交換をしている。	山形県GH協会に参加、又交換研修に参加して情報交換しサービスの向上に反映している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者開始前に面会にいたり、交流を図っている。利用開始してからは特に本人の想いを傾聴するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをより多く話して頂ける雰囲気作りに努めている。サービス開始時に運営推進会議に参加頂き、多くの意見要望等を頂きご理解頂けたように思っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にケースシート等情報をスタッフが把握し、このグループホームが適切か全員で考え受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒にメニューを考えたり、作り方を教わりながら行ったり、利用者から行動できるよう支援しているが、利用者同士のトラブルも少なくない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と一緒にメニューを考えたり、作り方を教わりながら行ったり、利用者から行動できるよう支援しているが、利用者同士のトラブルも少なくない。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の施設に入所された利用者さんに会いに行ったり、床屋、美容院については、一部の利用者のみとなっており、まだまだ把握する努力がたりなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを理解できておらず、批判したりしているが現状を把握した上で過剰な支援は避け見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に会いに行ったり、亡くなられた方の時はご家族と一緒にお別れ会を開き思い出を語り合ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿い外出等望まれている方に一緒に買い物に行ったりしているが、一部の利用者に限られてしまっている。	利用者に関し気づいた事は毎日のミーティングで話し合っている。一人ひとりの思いや希望を聞いているが、実施されるのが、まだ一部の利用者だけである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まだまだ把握が足りていない。今後家族が来所される際にゆっくり話ができる環境を作り、ご家族の協力を得ながら取り組みたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部屋で過ごしているが状況まではなかなか把握できていないのが現状。お一人お一人の残存機能の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では問題点など話し合い改善に努めているが、家族となると、一部になっている。	ケアプラン作成、更新の時、本人、家族の思いや意見を聞き、作成している。月1回は新しい視点で見直す事も必要と思われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を職員同士が、分かるよう情報の共有化を図っている。又個人記録、申し送りに目を通してからケアに入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の地域資源についてまだ把握しきれていないが、事業所内の季節の山菜を採り調理して食べたり畑に収穫に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続をしており、家族が付き添われ受診される方には、状況報告書をお渡しするだけでなく定期的に職員も同行させて頂き受診したりもしている。	本人、家族が希望しているかかりつけ医を受診する時は、定期的に職員も同行したり、家族だけで、受診する時は、事業所での生活状況がかかりつけ医に伝わるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院の際相談している。又常に利用者の変化に気付くよう対応している。同法人の看護職員との関わりを持ちたいと考えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は介護サマリーを記入し、ホームでの情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	法人全体としての統一した指針がまだ出ていない中、事業所ごと、今出来る事、出来ない事ははっきりさせ、ご家族との話し合いの場を設ける事が大事だと考えています。	(事例)入院中利用者に対して、家族、担当医と話し合い、現在事業所として何が出来るか？ 出来ないか？を話合っている。	事業所としてできること？できないこと？等を職員とも話し合い、早い時点より利用者、家族と話合う事が望まれる

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け実践力を身につけていけるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っている。運営推進会議を通じて事前に挨拶に出向き、理解と協力をおねがいでいる。	平成22年7月7日にデイサービスセンターと一緒に消防署立会いで、防災訓練を行った。夜間想定した訓練、地域住民参加しての訓練は行われていない。		地域住民参加の訓練は運営推進会議を通して協力してもらえるようにする。又防災計画、非常用食料、備品等の整備が必要である、役割を明確する為にも、マニュアル等の作成、職員の周知が望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛け一つにしても、なるべく人格の尊重を損なわないように注意を払っているが、まだまだ配慮に欠けているところがある。	まだ配慮が足りない面はあるが、出来るだけ利用者の人格の尊重を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に沿うよう、利用者の思いへの傾聴、自己決定を促しているが、一部の利用者に限られてしまっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた業務を無くし、お一人お一人のペースにあわせるようにしているが、職員の都合だったり、利用者の一声一つでペースが崩れるてしまってしまう事も多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や、毛染めなど利用者の希望し馴染みの床屋や美容院にでかけている。朝は自ら選んだ服を着たり、お化粧をしたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷蔵庫の中身を見てメニューを決めたり、一緒に買い物に出掛け、食べたい物を聞き材料を購入し調理している。	食べたい物を聞き又冷蔵庫の中を見てメニューを決めている。利用者が下ごしらえし職員と一緒に調理し、下膳はカウンターまで自分で運んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量については、一人ひとりの状態や習慣に応じた物にしている。水分量も夜間にも摂って頂けるよう声掛けし摂取して頂き確保出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行っており、お一人ひとりに合った支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は紙パンツを外し、布のパンツを使用し、お一人お一人の排泄リズムを把握した上で声掛けしトイレで排泄をうながしている。	利用者の排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるように支援している。また日中は布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、朝食後は特に時間を掛けてゆっくりトイレに座って頂く様、配慮している。又、今後は運動への声掛けを充実させたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望で入りたい時に入ってもらえるよう支援を行っているが、自ら思いを表せない方には、声掛けしたり、タイミングを伺いお誘いするが、思うように出来ていない。	週2回を基本としている。毎日入浴している人もいる。入浴を拒む人に対しては、言葉かけ、対応の工夫を職員の連携で、ひとり一人に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境を良くする工夫をしている。温度調節にも気を配り個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は必ず目を通して職員全員がチェックしている。又、新しい薬についてはなるべく職員が分かるように調べて把握するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく過ごせるように個々の思いを汲む努力をしているが、思いを表せる一部の方に限られてしまっているため、今後生活歴等からもくみ取ったり、コミュニケーションを多く取る必要がある。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伝えられる方には希望に沿える支援をしている。外出等希望していても伝えられない方には気持ちをくみ取り声掛けし、出かけている。家族や地域の人々の協力と協力しながらと、なると行えていない。	事業所の計画で遠出は、あやめ園、つつじ公園、外食等を行っているが、日常の散歩は、限られた人になっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方についてはご自分で支払い、お小遣い帳の記入が出来る支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は利用者のご家族と話したそうな時は電話での支援をしたり、手紙も利用者の希望に沿って一部であるが支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと一緒に掃除を行ったり、居心地の良い空間が保たれるようになってきている。以前は季節外れのものが貼ってあったりしていたが、職員個々の個性を発揮し、利用者と一緒に展示物などにも工夫が見られてきた。	玄関には、利用者家族からのプレゼントの季節の生花が飾られている。居間からは一面の田んぼで季節が感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所に趣味活動の道具を移動し共同の場としたが、生かされていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく入所された方に関しては、ご家族と相談し、なるべく今までの居室と同じような配置と、今まで使用していた物を使って頂けるよう支援している。	入所の時になじみのものを持って来てもらえるように家族に働きかけている、	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を繰り返す場所には、手すりの取り付け、重度の方の異食防止の為に配慮した配置を工夫している。		